



来るべき新医療時代に向けて
～愛知県がんセンターの使命～

がんは年以來日本人の死亡原因の第一位を占めています。欧米先進国では心臓疾患が死亡原因の第一位ですから、がんは日本の国民病と言ってもよいでしょう。事実、日本人の二人の内一人が一生の内に一度はがんに罹り、約3割の人がこれが原因で死亡しているのです。米国などでは禁煙運動が定着してがんが減少傾向をみせていますが、残念ながら日本ではまだまだ増え続けていますから、世紀における当がんセンターの役割はますます重要になると考えています。

当センター理念と目標は、

- ・ 愛知県民をはじめとする患者さんに最新で最高のがん医療を提供する。
- ・ 医療の透明性を保ち、情報を開示し、患者さん中心の医療を患者さんの同意のもとに行う。
- ・ 病院と研究所が一体となって、がんの本態を解明しつつ、新しい診断・治療の技術を研究・開発してゆく。そのために、職員は、より高い専門性を得る努力と研さんを行う。
- ・ がん予防のための知識の啓蒙を行う。

などです。

がんの治療法は着実に進歩しており、最近がんの原因となっている遺伝子異常を標的とした分子標的薬が作られ、一部ではすばらしい効果をあげています。

がんは生活習慣病の一つですから、禁煙に加えて緑黄色野菜を十分食べ塩分と脂肪の少ない食事を摂り適度な運動をして、がんにならないようにするのが第一です。しかし、例え、がんになっても半数近くは治せる病気になっています。がんは小さいうちに見つけて早期治療をすれば薬も手術も放射線もより有効ですから、定期的ながん検診を受けて早期発見に努めてください。がんが見つかったら、紹介状を書いていただき、当センターを受診してください。最新で最高のがん医療を提供します。



病院長
大野龍三

■ 病院からの報告

「肺がんの新しい治療」

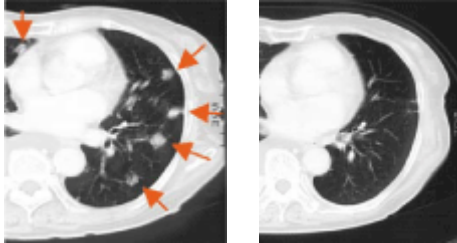


呼吸器科部長
杉浦孝彦



副部長
樋田豊明

肺がんにより年間5万6千人以上の方が犠牲になり、年には万人を超えることが予測されています。肺がんの治療は、外科手術、放射線療法、抗がん剤による化学療法が3本柱とされていますが、化学療法の占める割合が大きくなっています。



その理由は早い時期より肺がんは転移をすることが多く、全身療法としての化学療法が多くの患者さんで必要になるためです。化学療法の適応は、がん細胞の種類、がんの進行度、及び患者さんの体力に基づいて決められます。難治性の肺がんですが、着実に治療の進歩もみられており、その一つに小細胞肺がんに対する治療の進歩があり、日本で開発された新しい治療法はアメリカでも現在追試がされています。

さらに、肺がんの発生や増殖のメカニズムについて急速に知見が蓄積されつつあり、がんの増殖・進展といったがんの特性を標的とした分子標的剤による新しい治療法も開発されつつあります。非小細胞肺がんの患者さんを治療した結果では、抗がん剤が効かなくなった患者さんにも効果がみられています(写真:胸部CT写真。矢印の肺がん(白い固まり)は治療後消失しています)。愛知県がんセンター呼吸器科でも新しい分子標的剤の肺がんへの応用について研究所と共同研究していますが、患者さんに最新で最良の治療を提供するとともに、基礎研究で得られた成果をいち早く患者さんに生かしていきたいと考えています。

■ 研究所からの報告

「県民の効果的がん予防の推進を目指す」

疫学・予防部: 田島和雄



疫学・予防部長 田島和雄 疫学・予防部は常勤職員と非常勤職員とが一体となり、愛知県民や世界の人々の生き様を観察しながらがんの原因となる生活習慣を探し出し、人類の宿敵であるがんと戦い、そして共存していくための智恵を獲得する研究を続けております。古代から河川の水が大洋にそそぎ続ける悠久の世界のごとく、人間の生き様には始めも終わりもなく、人類が滅亡するまで疫学研究は永遠に続きます。その長い歴史の一通過点に私たちは偶然にも日本全国から名古屋の自由ヶ丘に集結し、愛知県民のがん予防を効果的に進める方法を試行錯誤しています。

疫学・予防部の基本的研究は次の4つに大別できます。

- 1) がんの流行の時空的変動を評価する記述疫学研究は、県地域がん登録や人口動態統計などの資料を活用し、県のがん対策の策定に不可欠な情報を提供します。
- 2) がんの要因探索を目指す分析疫学研究として、世界に例のない大規模な病院疫学研究を展開し、県民のがん予防の推進に役立つ情報を提供します。
- 3) がん予防の効果を科学的に実証する予防試験として、肺がんや乳がんを予防するための禁煙指導や肥満防止試験などを展開しています。

4)



がん死予防を目指した早期発見・治療のための検診活動の効果を評価する研究も重要です。さらに、

5) 県内で得られない貴重な情報を得るため、環太平洋地域における民族疫学的研究、

6) 集団予防のみならず個別予防を図るため、個々人で異なる生活習慣の健康影響を明らかにする分子疫学的研究、なども重要です。

これらの研究を発展させていくためには基礎研究部や病院との協力体制が不可欠であり、私たちは当センター機構の利点を最大限に活用しながら疫学・予防研究を進めております。

■ 研究所からのお知らせ

新研究所棟竣工記念公開講座のお知らせ

平成14年3月8日に、がんセンター研究所の新棟竣工記念公開講座を開催することとなりました。当研究所は、国立がんセンター設立の翌年(昭和39年)に開設以来、常にソフト(人材)面では、がん研究の先陣を切ってまいりました。このほど、近年のハード面での立ち遅れを解消し、21世紀もがん研究のトップランナーでありつづけるための改築工事が、県財政逼迫による規模縮小はありましたが、完成いたします。



竣工記念公開講座は、県民の皆様にご覧いただくとともに、がんを苦しむ方々を救うためにいかに研究成果が役立つのかをご理解いただけるよう企画いたしました。講演会に加えて、研究所各部門の研究内容をヴィジュアルに分かりやすく展示する予定でおります。また、所員が展示内容について

診療医の紹介

今回は**消化器内科**です。

内視鏡や超音波を用いた消化器癌の早期診断、内視鏡治療(結石除去、減黄術、消化管癌の粘膜切除)、肝癌の酷峰を考慮し、他科との連携による化学療法や放射線治療を積極的に導入しています。当科は消化器癌で高度の診断・治療技術を備えており、暖かい看護とともに癌治療の専門としての自信を持って診療に当たっています。また将来的には、現在でも治療法の確立していない膵癌の遺伝子治療など難治がん治療のセンターを目指しています。

副部長 兼部長	副部長	副部長	医長	医長	医師	内視鏡 部長
大橋計彦	松浦昭	中村常哉	鈴木隆史	澤木明	原和夫	山雄健次


主な診療案内

平成14年1月1日現在の外来診療担当医一覧です。

	診療受付時間:新来・午前8時30分から午前11時30分まで				
	再来・午前8時から午前11時30分まで				
診療科	月	火	水	木	金
総合初診	山雄	杉浦	山雄	大野・森島	大熊
消化器内科	大橋・山雄 松浦・原	大橋・鈴木・原	大橋・山雄 松浦・澤木	中村・澤木	松浦・中村・鈴木
呼吸器内科	樋田	杉浦・吉田	堀尾	杉浦・樋田・堀尾	吉田
血液化学療法科	村上・鏡味・田地	森島・小椋・神谷	村上・田地	森島・小椋・神谷	村上・鏡味
頭部科	長谷川・藤本		長谷川・兵藤	(予約制)寺田(第1) 藤本(第2・4) 長谷川(第3・5)	寺田 藤本(第3) 兵藤(第4)
胸部外科	(予約制)	(予約制)	(予約制)	陶山・波戸岡	光富・篠田 陶山・波戸岡
乳腺外科	岩瀬・水谷 (三浦:予約制)	岩瀬・岩田・水谷 (三浦:予約制)	三浦・岩田	岩田・水谷	三浦・岩瀬
消化器外科	(予約制)	望月・金光	加藤・山村・清水	安井・平井・伊藤	(予約制)
整形外科	高橋・山田	(高橋:予約制)	山田		高橋(第1・3・5) 山田(第2・4)
泌尿器科	林		脇田	林・脇田	
婦人科	葛谷・那波	葛谷・中西・丹羽	那波・中西	葛谷/中西 那波・丹羽	中西・丹羽
放射線診断部			荒井・松枝	荒井・新槇	荒井・稲葉
放射線治療部	古平・鎌田	古平・古谷	不破・古谷	不破・鎌田・古谷	不破・古平・鎌田

※医師名の後の数字は、月の週を表わします。※変更(休診)等がございますので、お電話でご確認ください。

交通案内	市バス「自由が丘」下車徒歩3分
<ul style="list-style-type: none"> ・「名古屋駅」又は「栄」から市バス <ul style="list-style-type: none"> <li style="color: red;">基幹2系統 「自由ヶ丘」又は「猪高車庫」行乗車(所要約40分) ・地下鉄東山線「本山」から市バス <ul style="list-style-type: none"> <li style="color: red;">八事11系統 「光が丘」又は「猪高車庫」行乗車(所要約15分) ・地下鉄東山線「池下」又は「覚王山」から市バス <ul style="list-style-type: none"> <li style="color: red;">千種区系統 「猪高車庫」行乗車(所要約20分) ・地下鉄東山線「星ヶ丘」から市バス <ul style="list-style-type: none"> <li style="color: red;">星丘系統 「大曾根」行乗車(所要約20分) 	

 情報広場
<p>出張公開講座(岡崎健康フェアにおいて)</p> <p>明けましておめでとうございます。穏やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年11月11日(日)、岡崎市と岡崎市医師会 の全面的な協力をいただき、岡崎健康フェ</p>

アの特別企画として出張公開講座を開かせていただきました。講座を運営する私達にとって、多くの方に集まっていただけかどうかもとても不安でした。なにしろ初めての試みでしたから。

しかしその不安はすぐに一蹴されました。多くの方の出席をいただき講演後の質疑応答の時間も足りない状況でした。最終的には約300の方に集まっていただきました。健康に対する意識の高さに驚かされました。

今年も7月から公開講座を開催する予定です。昨年のお出張公開講座の経験を生かし、出来る限り多くの県民の皆様に参加していただけるような企画を検討しています。

(公開講座実行委員会事務局)

所在地 〒464-8681名古屋市千種区鹿子殿1-1

TEL:(052)762-6111

FAX:(052)764-2963